

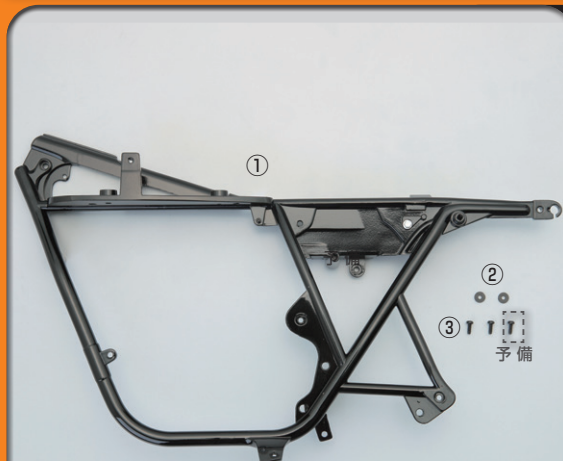
今号の作業

メインフレーム左を仮組みする



今号では「メインフレーム左」を提供する。これまでに組み立てたエンジンブロックやキャブレター、エアクリーナーケースといった各ユニットを左右フレームに挟み込み、今後の作業をスムーズに進めるための「仮組み」を行う。工程が多いので、慎重に作業しよう。

今号のパーツ



- ①メインフレーム左×1
 - ②樹脂ワッシャー×2
 - ③ビス(Jタイプ)×3(※1本は予備)
- ※②③は今回の作業に使用しないので、大切に保管しておこう。

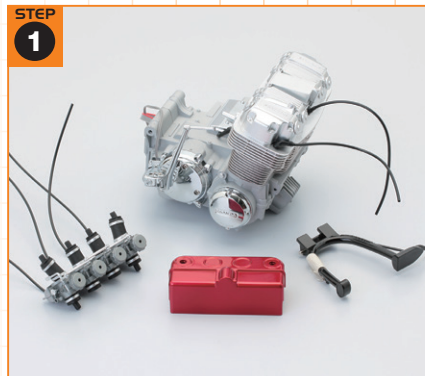
用意するもの

- ・キャブレター(17号で組み立てたもの)
- ・エアクリーナーケース(25号で組み立てたもの)
- ・メインスタンド(37号で組み立てたもの)
- ・エンジン(47号で組み立てたもの)
- ・メインフレーム右(48号で組み立てたもの)
- ・ビス(Eタイプ)×3(32号で提供した5本のうち3本を使用)
- ・ビス(Qタイプ)×2(32号で提供したもの)
- ・フューエルコックチューブA×1(48号で提供したもの)
- ・フューエルコックチューブB×1(48号で提供したもの)

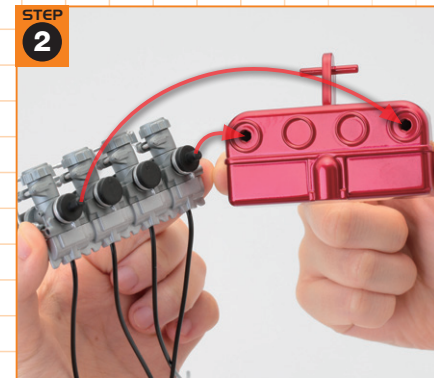
※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

使用する道具

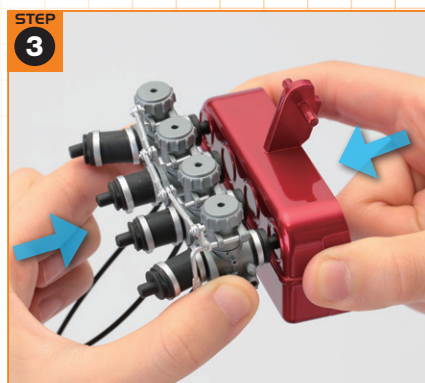
- ・+(プラス)ドライバー(1番)
- ・クロスレンチ(9号で提供したもの)
- ・ピンセット
- ・瞬間接着剤(低白化タイプ)
- ・ラジオペンチ
- ・ホビー用やすり(目の細かい棒状のもの)



STEP 1
17号で組み立てたキャブレター、25号で組み立てたエアクリーナーケース、37号で組み立てたメインスタンド、47号で組み立てたエンジンを用意しておく。各ユニットは、はめ込んだ部分などにゆりみがないか事前にチェックしておこう。



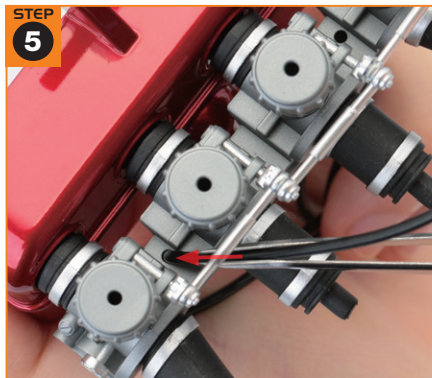
STEP 2
キャブレターとエアクリーナーケースを用意し、写真の向きではめ込む。



STEP 3
キャブレター背面左右の接続チューブから突き出ているピンを、エアクリーナーケース前面左右にある穴に差し込み、そのまま真っ直ぐに押し込む。



STEP 4
48号で提供したフューエルコックチューブAを用意し、ピンセットを使ってキャブレター上部に設けられた写真の穴にセットする。このとき、フューエルコックチューブAは「チョークロッドの下」を通すこと。



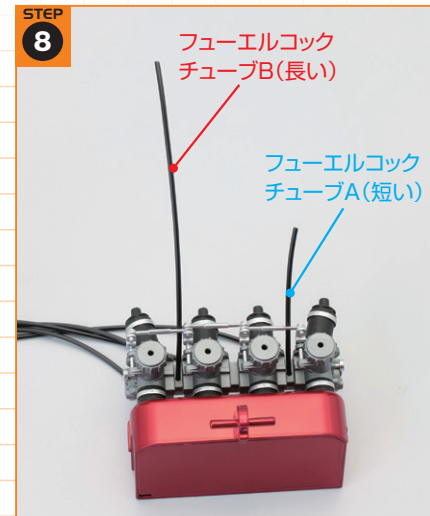
チューブAの先端を穴に差し込んだら、ピンセットでチューブを穴の奥に“入るところまで”送り込む。



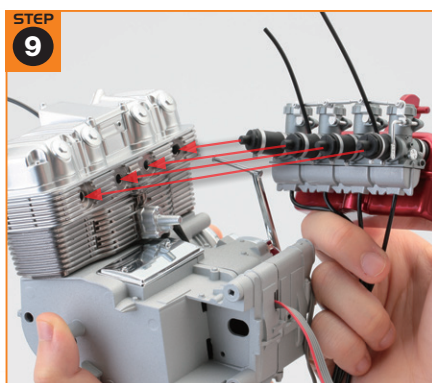
続いてフューエルコックチューブBを用意し、キャブレター上部に設けられた写真の穴にセットする。チューブAと同様、チューブBも“チョークロッドの下”を通す。



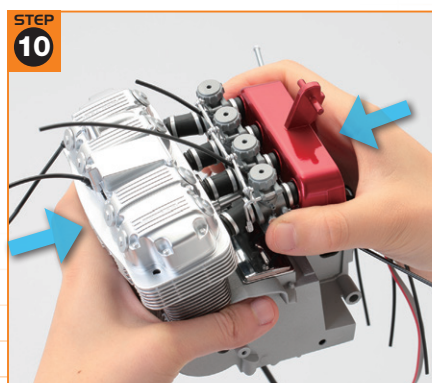
チューブBの先端を穴に差し込んだら、ピンセットでチューブを穴の奥に“入るところまで”送り込む。



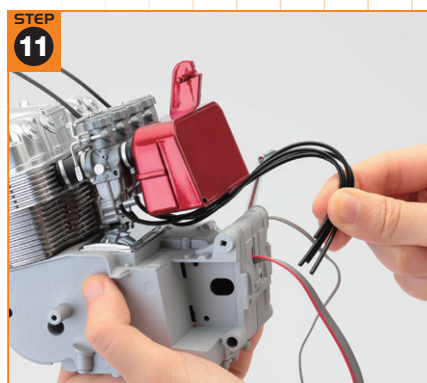
フューエルコックチューブAとBを取り付けた状態。エアクリナーケース側から見ると、右側がチューブA(短い方)、左側がチューブB(長い方)となる。



47号で組み立てたエンジンを用意し、キャブレターをセットする。



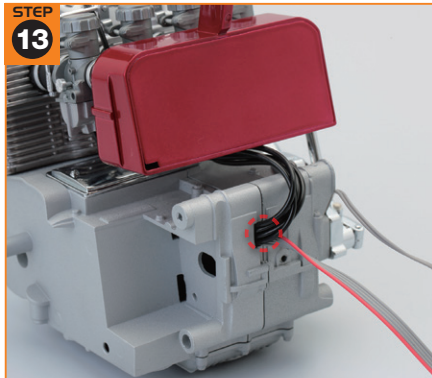
キャブレターに取り付けた各インシュレーター先端のピンを、エンジン背面の穴に差し込み、真っ直ぐに押し込む。



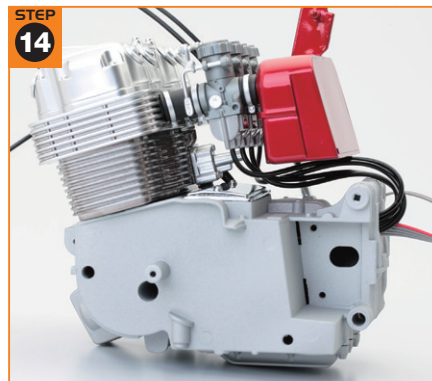
キャブレターの下に取り付けた4本のオーバーフローチューブを引き出し、クランクケース後端部で束ねる。



クランクケース後端に設けられた、IRセンサーのケーブル出口に、束ねたオーバーフローチューブの先端を差し込む。



オーバーフローチューブを差し込んだ状態。チューブは4本を縦に並べ、IRセンサーのケーブルと重ねるようにすると良い。



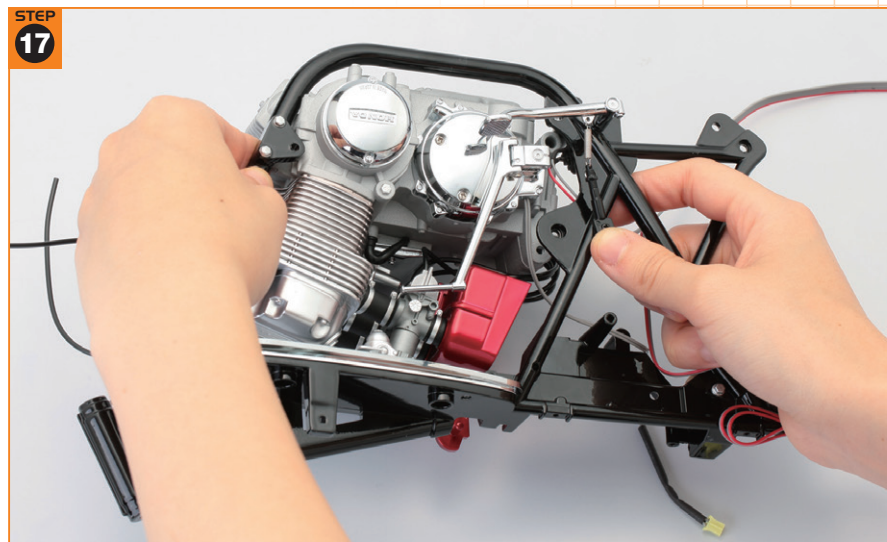
エンジンを真横から見た状態。オーバーフローチューブが写真のようにまとまっているか確認しよう。



48号で組み立てたメインフレーム右と、①メインフレーム左を写真のように並べ、写真に示した各ビス穴をチェックする。



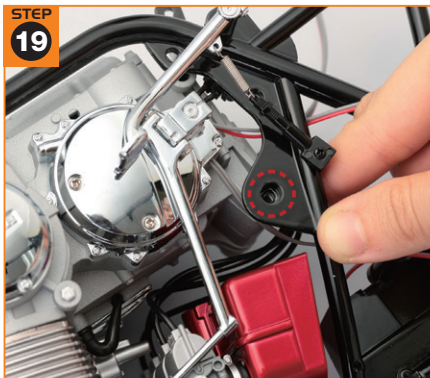
ビス穴の内側にバリが残っていた場合は、目の細かいホビー用やすりを使って削り落とす。最初からきれいな状態であれば、この作業は必要ない。



エンジンの右側面が上になるよう平らな台の上に置く。次にメインフレーム右を写真のようにエンジンの上にかぶせる。コネクタケーブルをまとめておいたマスキングテープは、ウインカー部は残して他を取り外す。ケーブルは写真を参考にして作業の邪魔にならない位置に取りまわしておく。



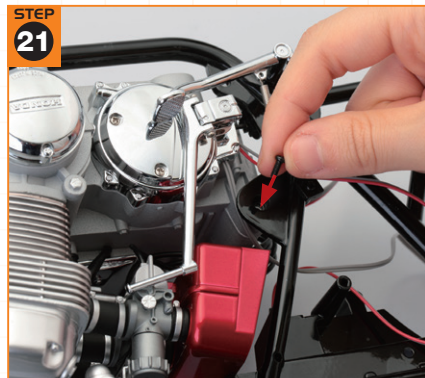
エアクリーナーケース上部のピンを、メインフレーム上部の取り付け穴に差し込む（※写真は、位置を見やすくするためにフレームを立てた状態で撮影したもの）。



STEP 19
エンジンのクランクケースに設けられた取り付け部と、メインフレーム右のビス穴を合わせる。まず、クランクケース後端と、フレーム中央部分のビス穴を合わせよう。



STEP 20
次にクランクケース前端とフレーム前方にあるエンジンマウントのビス穴を合わせる。



STEP 21
Eタイプのビスを用意し、フレーム中央部分のビス穴にセットする。



STEP 22
1番の+(プラス)ドライバーを使い、Eタイプのビスをゆっくりとねじ込む。このビス穴にはタップが立てられていないので、ビスを傷めないよう慎重に作業しよう。



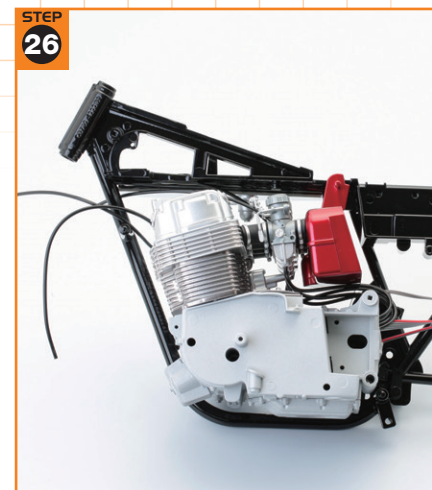
STEP 23
続いてエンジンマウントのビス穴に、Qタイプのビスをセットする。



STEP 24
クロスレンチの一番小さい六角穴(※写真参照)を使い、Qタイプのビスを真っ直ぐに押し込みながら、ゆっくりと右回りに回してねじ込む。途中、クロスレンチのアーム部がクランクケースに当たるようになるので、面倒でもその都度レンチを付け直し、少しずつねじ込む。



STEP 25
Qタイプのビスをある程度までねじ込むと、レンチがすべり始める。そうになったらレンチをラジオペンチに代え、最後までしっかりとねじ込む。



STEP 26
これでエンジンとキャブレター、エアクリーナーケースがメインフレーム右に取り付けられた。写真と照らし合わせて確認しよう。



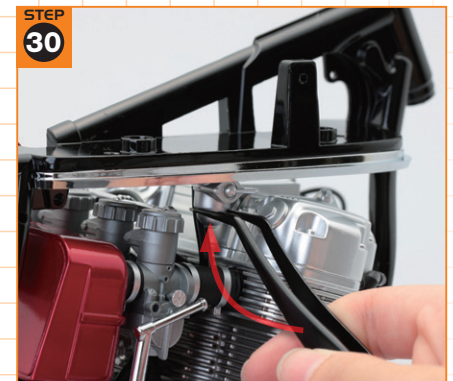
燃料タンクモール右に差し込んでおいたフューエルコックをピンセットで取り外し、キャブレターに取り付けたフューエルコックチューブAとBを、燃料タンクモール右の下から外へと引き出す。



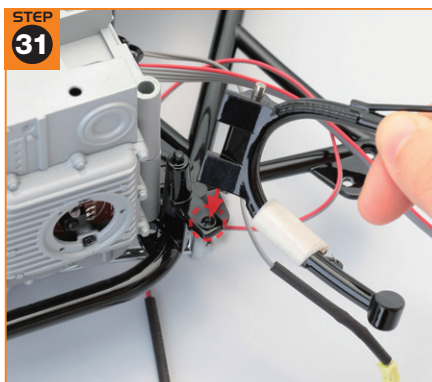
フューエルコックの左側に設けられた2本のピンに、低白化タイプの瞬間接着剤を少量塗布する。



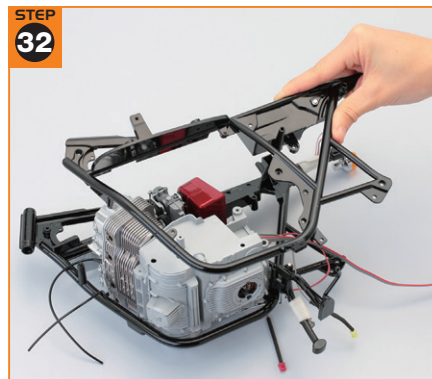
フューエルコックチューブAとBそれぞれを、フューエルコック左側のピンに取り付ける(写真参照)。



フューエルコックを燃料タンクモール右の底面にピンセットで取り付け直し、低白化タイプの瞬間接着剤を使って固定する。



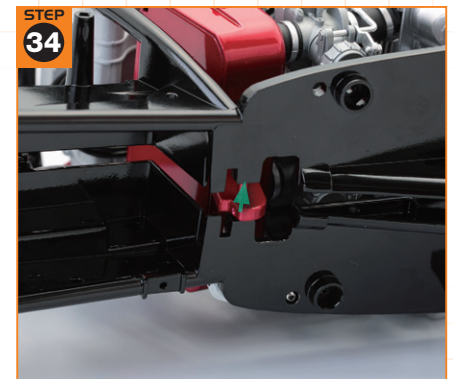
メインフレームを裏返して置き、37号で組み立てたメインスタンドを用意し、写真の穴に右側のシャフトを差し込む。このとき、キックスターアームとブレーキペダルを傷めないよう、慎重に置くこと。



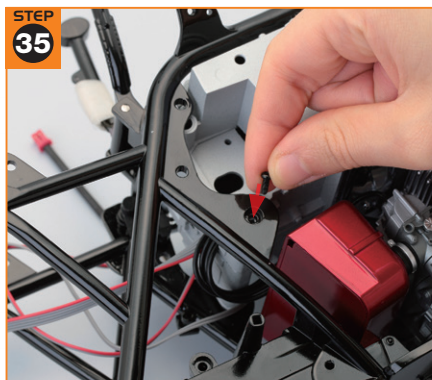
メインフレーム左を用意し、メインフレーム右と同じ要領でエンジンの上にかぶせるようにセットする。



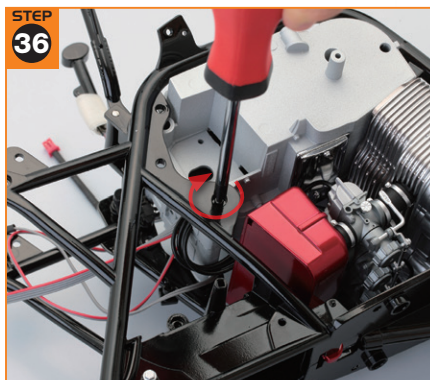
メインフレーム左の下部に設けられた穴に、メインスタンドの左側シャフトを差し込む。



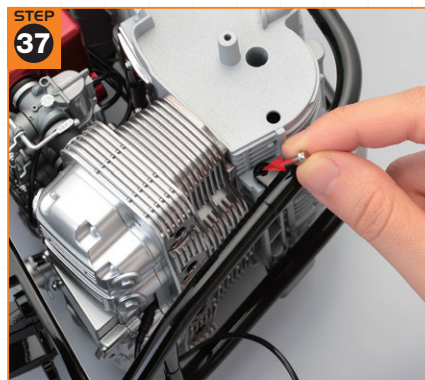
エアクリーナーケース上部左側のピンを、メインフレーム左の上部に設けられた取り付け穴に差し込む。次にクランクケース前端とフレーム前方にあるエンジンマウントのビス穴を合わせる。



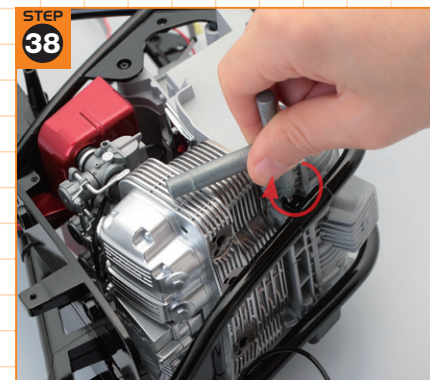
Eタイプのビスを用意し、フレーム中央部分のビス穴にセットする。



1番の+(プラス)ドライバーを使い、Eタイプのビスをゆっくりとねじ込む。このビス穴にはタップが立てられていないので、ビスを傷めないよう慎重に作業しよう。また、メインフレーム左は“仮組み状態”にするので、最後までねじ込まないように注意すること。



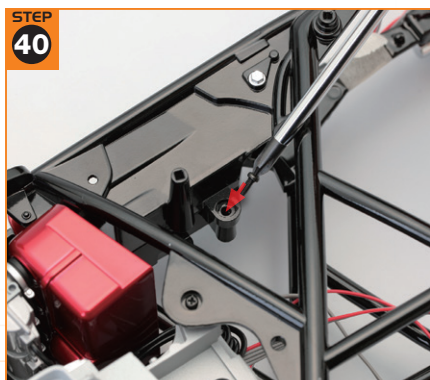
続いてエンジンマウントのビス穴に、Qタイプのビスをセットする。



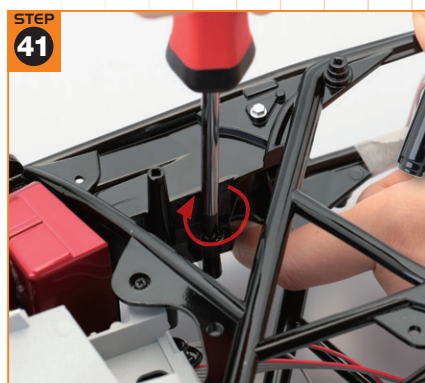
クロスレンチの一番小さい六角穴(※写真参照)を使い、㉔、㉕と同じ手順でQタイプのビスを真っ直ぐにねじ込む。ただし、このビスも最後までねじ込まないようにする。



Qタイプのビスをある程度までねじ込んだ状態。ビスのアタマの裏側と、エンジンマウントとの間に0.5mm程度のすき間をのこしておく。

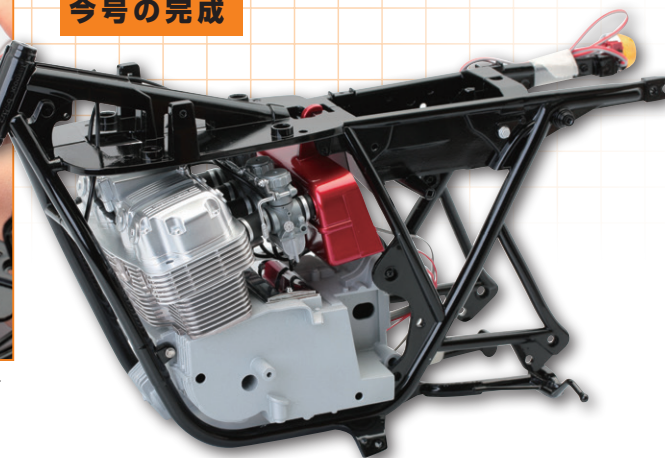


メインフレーム左の後方に設けられたビス穴に、Eタイプのビスをセットする。



1番の+(プラス)ドライバーを使い、Eタイプのビスをゆっくりとねじ込む。このビスも、最後までねじ込まないように注意すること。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。メインフレーム左を仮組みとしたのは、今後提供されるパーツの取り付け作業を容易にするためと、重量のあるエンジンブロックを左右フレームで支えるためだ。この状態であれば、フレームを立てた状態でできるので、各パーツを傷めないよう注意し、次回の作業に備えて大切に保管しよう。